



佐伯留守夫 略歴

1912(明治45)年 宇都宮市埴田町に生まれる。  
 1926(大正15)年 14歳 栃木県師範学校附属小学校卒業  
 昭和元)年 栃木県立宇都宮中学校(現・宇都宮高等学校)入学。  
 在学中に宇都宮市の上野百貨店の催事場にて木彫作品による個展を開催。  
 1928(昭和3)年 16歳 版画誌「刀」創刊に参加。卒業するまで毎号作品を発表。  
 1931(昭和6)年 19歳 栃木県立宇都宮中学校卒業。  
 東京美術学校(現・東京芸術大学)彫刻科入学。児島矩一に師事。  
 1932(昭和7)年 20歳 小野忠重が主宰する新版画集団の結成に参加。  
 1936(昭和11)年 24歳 東京美術学校彫刻科第5学年卒業。同校彫刻科研究科入学。  
 1938(昭和13)年 26歳 東京美術学校彫刻科研究科修了。自家就業後、臨時召集により入隊。  
 1940(昭和15)年 28歳 召集解除後、自家就業。  
 東邦彫塑院会員となる。  
 1941(昭和16)年 29歳 臨時召集により入隊。  
 1946(昭和21)年 34歳 復員後、制作を再開。  
 1947(昭和22)年 35歳 日本彫塑会会員となる。  
 第1回栃木県芸術祭企画委員となり、以後1975年開催の第2回栃木県芸術祭美術展(通算29回展)まで部会委員、審査委員を務める。  
 1951(昭和26)年 39歳 河内郡雀宮村立(現・宇都宮市立)雀宮中学校非常勤講師となる。  
 川上澄生を会長として「鈍刀会」を結成。版画誌「鈍刀」を創刊。  
 1957(昭和32)年 45歳 宇都宮市立雀宮中学校教諭となる。  
 1968(昭和43)年 56歳 宇都宮市立一条中学校教諭となる。  
 1976(昭和51)年 64歳 宇都宮市立一条中学校退職。  
 栃木県立鹿沼商工高等学校非常勤講師となる。  
 1979(昭和54)年 67歳 栃木県立鹿沼商工高等学校退職。  
 1986(昭和61)年 74歳 逝去。

展覧会  
 第5回東邦彫塑院展・第5回齊々会彫刻展・第2回聖戦美術展覧会(1941)  
 第2回日展(1946)、第3回日展、第4回日展、第6回日展、第7~11回日展  
 社団法人に組織改正 第1回日展(1958)、第6回日展、第8回日展  
 第2回栃木県芸術祭美術展(通産第29回展)の運営委員、審査委員として出品(1975)  
 第3回~第11回栃木県芸術祭美術展に招待出品

個展  
 下野新聞社3階ホールにて同郷の洋画家・鈴木貫司と「二人展覧会」を開催(1937)  
 栃木会館ギャラリー「佐伯留守夫彫塑展」(1957)  
 宇都宮市文化会館開館記念行事として個展開催(1980)  
 宇都宮市、上野百貨店本館4階美術サロン「父子展」開催(1983)

主な依頼制作作品  
 カトリック高崎教会 木彫レリーフ《十字架の道行》(昭和30年代)  
 宇都宮市立城山中央小学校 プロンス像《鈴木惣庫先生の像》(1957)  
 栃木県立宇都宮中央女子高等学校《母子像》(1958)  
 鹿沼市立北小学校《なかよしの像》(1960)  
 鹿沼市立東小学校《良い子の像》(1964)  
 栃木県立宇都宮東高等学校 木彫《若木》(1967)  
 今市市立(現・日光市立)豊岡中学校《よい子の像》(1968)  
 宇都宮市立一条中学校《三志之像》(1969)  
 宇都宮市立宮の原小学校《希望》(1976)  
 栃木県立宇都宮高等学校正門南側《川上澄生記念碑》の設計及びプロンス制作(1977)  
 宇都宮市立一条中学校 木彫《笛を吹く少女像》(1979)  
 栃木県立宇都宮高等学校創立100周年記念 プロンス像《原頭に立つ》(1979)  
 宇都宮市立陽東中学校 木彫《友愛》(1982)  
 宇都宮市立宮の原中学校 木彫《のびる》(1982)  
 河内郡上三川町立明治小学校《ともだちの像》(1985)  
 宇都宮市立桜小学校 木彫《希望》(制作年不詳)



佐伯守美 略歴

1949(昭和24)年 8月4日、父、彫刻家 佐伯留守夫、母、八重子の長男として宇都宮に生まれる。  
 宇都宮大学附属中学校卒業。  
 1965(昭和40)年 栃木県立宇都宮東高等学校卒業。  
 1968(昭和43)年 武蔵野美術大学商業デザイン科中退。  
 1971(昭和46)年 東京芸術大学工芸科入学。  
 1974(昭和49)年 25歳 栃木県芸術祭工芸部門《伊羅羅線文壺》奨励賞受賞。  
 1975(昭和50)年 26歳 東京芸術大学工芸科陶芸専攻卒業。卒業制作《象嵌壺》13点、サロン・ド・プランタン賞受賞。  
 第15回伝統工芸新作展《焼〆象嵌線文壺》初入選。  
 1976(昭和51)年 27歳 国際陶芸展'76《象嵌焼〆広口壺》、第23回日本伝統工芸展《象嵌線文壺》初入選。  
 1977(昭和52)年 28歳 東京芸術大学大学院陶芸専攻修了。《揺落とし美藝文大皿》芸大資料館買上げ。  
 株式会社場陶苑入社。  
 1978(昭和53)年 29歳 栃木県芸術祭工芸部門《象嵌壺》芸術祭受賞。  
 1980(昭和55)年 31歳 日本工芸会正会員となる。  
 1981(昭和56)年 32歳 場陶苑退社、栃木県芳賀郡芳賀町給部に独立築窯する。  
 1983(昭和58)年 34歳 「今日の日本陶芸」(ワシントン・スミソニアン博物館、ロンドン、ビクトリア・アルバート美術館)出品。  
 1987(昭和62)年 38歳 東京芸術大学非常勤講師となる。(〜2001年)  
 1988(昭和63)年 39歳 第28回伝統工芸新作展《白揺らし山帰来文鉢》奨励賞受賞。  
 '88国際陶芸展《練上象嵌樹本文壺》優秀賞受賞。  
 1990(平成2)年 41歳 栃木県文化奨励賞受賞。  
 1991(平成3)年 42歳 マロニエ文化賞受賞。  
 第31回伝統工芸新作展《練込象嵌樹林文壺》東京都教育委員会賞受賞。  
 1994(平成6)年 45歳 栃木県芸術祭工芸部門審査委員。  
 1995(平成7)年 46歳 第35回伝統工芸新作展審査委員。  
 1996(平成8)年 47歳 第36回伝統工芸新作展審査委員。 栃木県芸術祭工芸部門審査委員。  
 1997(平成9)年 48歳 栃木県芸術祭工芸部門審査委員。  
 1998(平成10)年 49歳 第38回伝統工芸新作展審査委員。  
 2001(平成13)年 52歳 文星芸術大学非常勤講師となる。  
 2002(平成14)年 53歳 第42回伝統工芸新作展審査委員。《象嵌釉彩樹林文扁壺》宮内庁買上げ。  
 第4回益子陶芸展審査員特別賞受賞。  
 2004(平成16)年 55歳 大滝村北海道陶芸展金賞受賞。  
 2005(平成17)年 56歳 第66回一水会陶芸展一水会賞受賞  
 第67回一水会陶芸展佳作賞受賞。 第45回伝統工芸新作展審査委員。  
 2006(平成18)年 57歳 第46回伝統工芸新作展審査委員。  
 第68回一水会陶芸展《白揺らし薊文鉢》西武賞受賞。  
 2007(平成19)年 58歳 第35回新作陶芸展《象嵌泥彩樹林文壺》日本工芸会賞受賞。  
 2009(平成21)年 60歳 第49回伝統工芸日本支部展審査委員。  
 国際交流基金の招待にて中国揚州市における、第5回日中韓文化交流フォーラムに参加。

展覧会  
 日本伝統工芸展 23~25、27、30、32、33、35~49、51~57回展  
 伝統工芸新作展 15~20、22~26、28~50回展  
 日本陶芸展 9、11~15、17~20回展

個展  
 日本橋高島屋、寛土里、黒田陶苑、現代工芸藤野屋、壺中居、赤坂ギャラリー、ぎやらいげん、岡山高島屋、銀座和光ホール、大阪心斎橋大丸、高崎高島屋、横浜高島屋、名古屋ジェイアール高島屋、大阪難波高島屋、福岡三越、日本橋三越、他

陶壁制作  
 セントラルホテル(1979)、林予備校《林》(1980)  
 宇都宮中央女子高等学校《和》(1985)、宇都宮東高等学校《正、剛、寛》(1987)  
 西那須野町舎《松、風、那須疎水》(1989)、れすとらん櫛《けやき》(1990)  
 宇都宮市立泉ヶ丘中学校《そびえ》(1991)、萱島動物病院《はやし》(1991)  
 芳賀町民会館ホワイエ《ケヤキ》(1991)、芳賀町立芳賀北小学校(2001)  
 三本木デイケアセンター(2004)、和田工業(2004)

所蔵  
 東京芸術大学、滋賀県立陶芸の森、佐野市立吉澤記念美術館、九州産業大学美術館、宮内庁

現在  
 日本工芸会正会員、一水陶芸部会会員、文星芸術大学非常勤講師、九つの音色同人、東洋陶芸会会員、日本中国文化交流協会会員、日本陶芸協会会員



天宇受賣命  
佐伯留守夫 個人蔵

象嵌釉彩樹林文花瓶 2010年  
佐伯守美 個人蔵

# 佐伯留守夫 佐伯守美

—父から息子へ美の継承—

2010.9.19 SUN — 10.20 WED

主催：芳賀町教育委員会



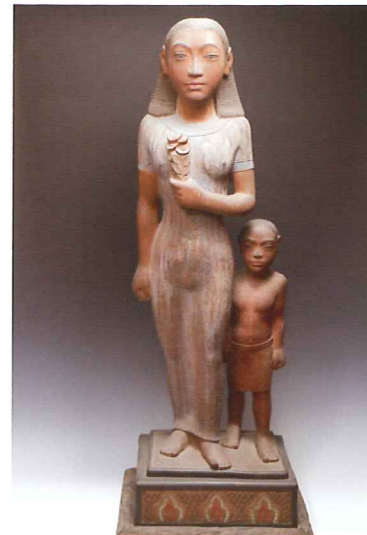
佐伯留守夫(1912-1986)・守美(1949-)親子は、彫刻と陶芸という異なった分野ではありながら、それぞれその素材を彫るといふ行為を通して作品を制作してきました。  
 彫刻家である父 留守夫氏は、旧宇都宮中学(現在の宇都宮高校)在学中より木彫や版画などを制作してきました。素朴で温もりのある作品は、多くの人々に親しまれ県内の学校、施設に数多くの作品が残されています。  
 息子の守美氏は、象嵌を用い表現力と技術の両方を兼ね備えた陶芸家として高い評価があります。また芳賀町給部に窯を構え、芳賀町民会館ホワイエの陶壁、芳賀北小学校の陶壁の制作者として、芳賀町でもなじみの深い陶芸家です。小さな食器類から大作の陶壁に至るまで多種多様な作品は、人々からたいへん親しまれています。



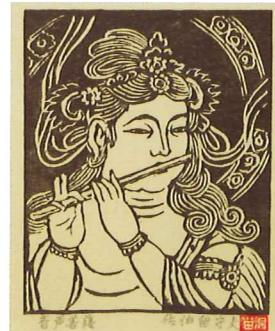
大聖不同明王像 木 彩色 個人蔵



天字受賣命 木 彩色 個人蔵



更生 木 彩色 個人蔵



音声菩薩 木版墨刷 紙 個人蔵



音声菩薩 木版墨刷 紙 個人蔵



大日如来 木版墨刷 紙 個人蔵



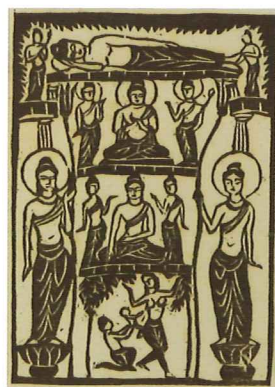
孔雀明王 木版墨刷 紙 個人蔵



釈迦 木版墨刷 手彩色 紙 個人蔵



不動明王像 木版墨刷 紙 個人蔵



釈迦 32枚組のうち「釈迦四相図」 木版墨刷 紙 個人蔵

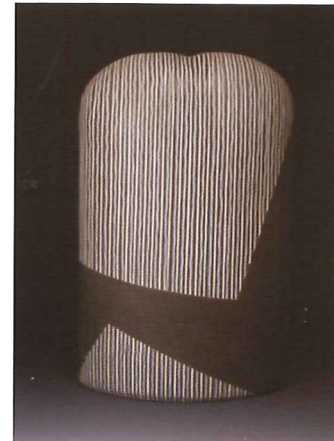


釈迦 32枚組のうち「涅槃之図」 木版墨刷 紙 個人蔵

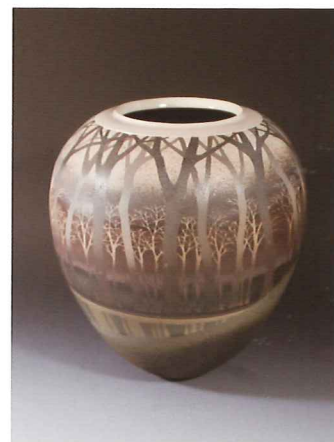


年賀状 木版多色刷 紙 個人蔵

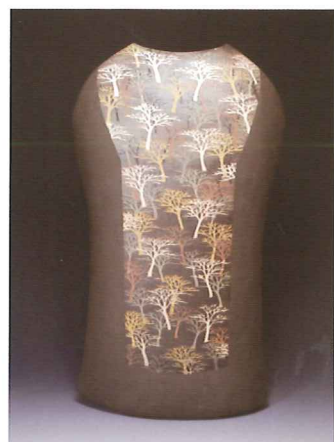
父から息子へ  
美の継承



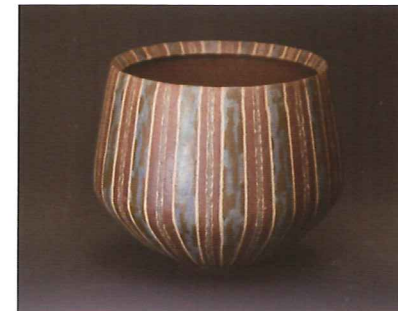
象嵌線文陶管 2004年 55歳 個人蔵



象嵌袖彩樹林文壺 第18回日本陶芸展 2005年 56歳 個人蔵



象嵌袖彩樹林文花瓶 第20回日本陶芸展 2009年 59歳 個人蔵



象嵌焼ノ口壺 国際陶芸展'76 1976年 26歳 個人蔵



白播落し赤絵細鉢(5客) 第4回益子陶芸展審査員特別賞 2002年 53歳 個人蔵



播落し鉄彩わぎ文鉢 2005年 56歳 個人蔵



象嵌泥彩白樟林文陶板 九つの音色展 2009年 60歳 個人蔵



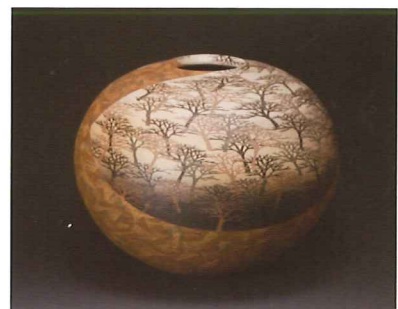
播落し芙蓉文大皿 日本工芸会東京支部第17回伝統工芸新作展 1977年 27歳 個人蔵



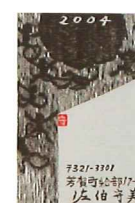
象嵌袖彩樹林文組台皿(5枚組) 第51回日本伝統工芸展 2004年 55歳 個人蔵



象嵌袖彩樹林文鉢 第56回日本伝統工芸展 2009年 60歳 個人蔵



象嵌泥彩樹林文壺 2010年 61歳 個人蔵



年賀状 寒中見舞い 木版墨刷または多色刷 個人蔵